

授業と評価の年間計画

教科	数学・理数	科目	数学Ⅲ、数学探究 B、理数数学Ⅱ、理数数学特論		
履修条件 対象生徒	必修 普通科（理型）・理数科 3年				
学習目標	複素数平面、式と曲線、関数、極限、微分法、積分法について理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、大学入試に対応できる能力を身に付ける。				
学習方法	<p>1 教科書の内容 予習・復習を大切にし、理解が不十分である内容については必ず授業や質問等において確実に自分のものとする。</p> <p>2 演習問題 入試問題が解けるためには、必ず自分で考える習慣をつけること。一つの問題を解くのに様々な分野の内容を関連づけて考える習慣をつけること。</p>				
学習計画 と ねらい	1 1学期 (1)中間考査、期末考査まで ア 数学Ⅲ (ア)第3章 関数 (イ)第4章 極限 (ウ)第5章 微分法 (エ)第6章 微分法の応用  (オ)第7章 積分法  (カ)第8章 積分法の応用  (キ)第1章 複素数平面  (ク)第2章 式と曲線  イ センター試験対策		<ul style="list-style-type: none"> <li>・分数関数、無理関数、逆関数、合成関数を理解する。</li> <li>・微分法、積分法の基礎として極限の概念を理解し、それを数列や関数値の極限の考察に活用できるようにする。</li> <li>・関数の微分法について理解する。</li> <li>・微分法を用いて関数値の増減やグラフの凹凸などを考察し、微分法の有用性を認識するとともに、具体的な事象の考察に活用できるようにする。</li> <li>・関数の積分法について理解し、活用できるようになるとともに、定積分と和の極限の関係を理解する。</li> <li>・積分法の有用性を認識するとともに、図形の求積等に活用できるようにする。</li> <li>・複素数平面を用いて、諸演算を図形的に表したり、図形の性質を複素数を用いて考察できるようにする。</li> <li>・2次曲線概念とその基本的な性質について理解し、具体的な事象の考察に活用できるようにする。</li> <li>・「数学Ⅰ・A・Ⅱ・B」の知識と技能の定着を図る。</li> </ul>		
	2 2学期 (1)中間考査、期末考査まで ア 数学Ⅲ (ア)数学Ⅲの演習 イ センター試験対策		<ul style="list-style-type: none"> <li>・2次試験対策として数学Ⅲのいろいろな問題が解けるようにする。</li> <li>・マークシート方式の出題に慣れ、いろいろな分野の問題に限られた時間の中で理解でき、解けるようにする。</li> </ul>		
	3 3学期 (1)学年末まで ア センター試験対策 イ 2次試験対策		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分野のマークシート方式の問題に限られた時間の中で解くことができ、理解できるようにする。</li> <li>・高校数学の振り返りと融合問題の演習を行うことで、大学入試問題に対応できるようにする。</li> </ul>		
評価規準	知識・理解	技能	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	
	基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けることができる。	思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けることができる。	学習する内容に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとしている。	
評価方法	定期考査、授業態度、課題・提出物を総合的に判断して評価する。				
その他	講座編成の授業を行う場合もある。				